

21世紀COEプログラムKAGI21の総括と今後の展望

余田成男教授

(拠点リーダー)

昨年7月にインドネシア・バンドンで京大国際シンポジウムを開催し、200人が集まった。KAGI21はこの3月で終了するので、5年間の成果集を発行した。今後の展望としては、教育研究能力を更に高めて、国際的な競争に勝ち抜くことができる人材を育成する。申請中のGlobal COEでは環境基盤の整備を進め、世界最高水準の研究環境の下で研究を行い、人材を育成する。また、若い学生のキャリアパスを広げていくことが必要である。院生全員が研究者として受け入れられることにはならないので、広い視野をもった学生の活躍の場が得られるよう、諸先輩にはよろしくご協力をお願いしたい。

Global COEは今年度よりすでに5つの分野がスタートしている。数学・物理学・地球科学の分野では12~13拠点が選ばれ、30~40億円の予算が計上される見込みである。分野を広くカバーし、幅広いスペクトルの活動をしたい。地球・地磁を一体化し、開かれた教育研究拠点を目指す。京大・東大・早大・慶大の4大学の学生の交流を図り、ある時期別の教育を受けられるような制度を取り入れる。また、立命館アジア太平洋大学（APU）と連携してアジア・オセアニアから世界へ発信する。

耐震改修が終わる一年後には地球惑星科学専攻が一箇所に集まることははっきりしており、精力的に組織改革を行っていく所存である。新たな教育研究拠点へのご支援をぜひよろしく願いたい。

質問：最も地震が起りうる活断層にボーリングをしていく予算があるのでしょうか？

余田：JAMSTECが海底ボーリングを進め、沈み込み帯の掘削研究も始まっている。これは新しい段階に入った大プロジェクトである。

質問：資料の英語版はあるか？

余田：ある。家内手工業であるため、まだCDに焼けていない。

司会：それでは特別講演に移ります。25年卒の大内先生からお手紙を頂いて、岡本先生の研究が最近まとまったとのことで、ご講演をお願いしたところご快諾を頂いた次第です。